

街なかのオアシス

香風園



〔坂出市指定文化財〕

【香風園の沿革】

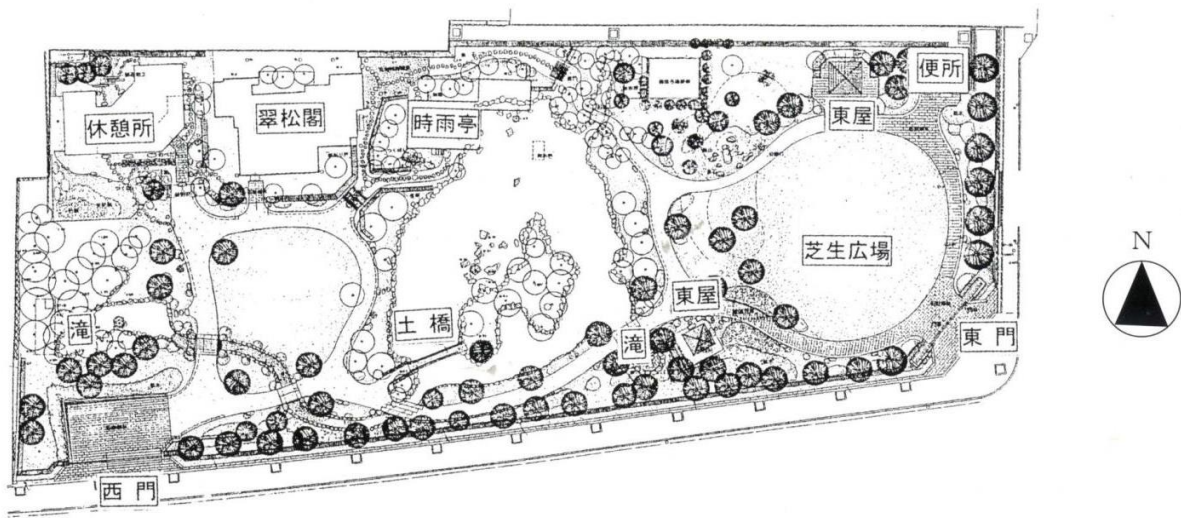
香風園の歴史は古く、坂出市が生んだ実業界、政界の重鎮鎌田勝太郎氏が明治41年より43年にかけて、南方に聳える名峰飯野山（讃岐富士）、笠山、角山等を借景に取り入れ鎌田家別邸として築庭される。

園の構成は、西部域に池泉廻遊式の日本庭園、東部域は芝生広場を中心とした洋風庭園にまとめられており、日本庭園は変化に富む汀線を持った池泉に豪快な中島を配し、汀の石組は荒磯の景に見立てつつ、中島に架かる橋は庭園のどの位置からも実に優美な姿を見せるなど多くの大名庭園をも凌ぐものであった。一方、築山とその外周域には見事な自然形仕立てのクロマツとウバメガシが適所適所に植栽され、木々の間には大きな滝が落ちていた。

時代も移り、昭和30年2月、この香風園を鎌田家より坂出市が買受け、児童公園として、また街なかの公園として広く市民に開放されることとなった。その後、平成元年着工の鉄道高架化事業に伴い、公園の南側一帯が市道坂出宇多津線の道路敷地として利用されることとなり、築庭当時の姿は大きく様変わりした。市では、坂出駅周辺主要プロジェクト事業の一環として、平成11年度から2カ年をかけ香風園を築庭当時の名園に復元し、市街地中心部の公園として広く市民に利用頂けるよう大規模な修復工事を行い、滝組の復元、西門や庭門、休憩所、園路の新設、遣水の開設、東屋、水飲み場など便益施設を設置した。

この園は和風と洋風の庭を併設した地割りであり、日本庭園は池泉を廻遊しながら一步一景を楽しむ事が出来、なかでも茅葺きの時雨亭と茶亭からの眺めは昔時の借景は見られないものの、茶亭の目前には所々に配置された、雪見灯笼、手水鉢、池に浮かぶ見事な亀石、反りをもった土橋、雄大な滝の水落ち、趣のある見事な景石、池泉の汀石、庭内の一木一石にいたるまで築庭当時の景を可能な限り復元整備したものである。

【園内案内図】



【施設概要】

面積	5,729㎡
園西側	日本庭園【翠松閣・時雨亭・休憩所・池】
園東側	洋風庭園【芝生広場・東屋・便所】
防犯ベル	屋外5箇所・園内7箇所

【時雨亭】



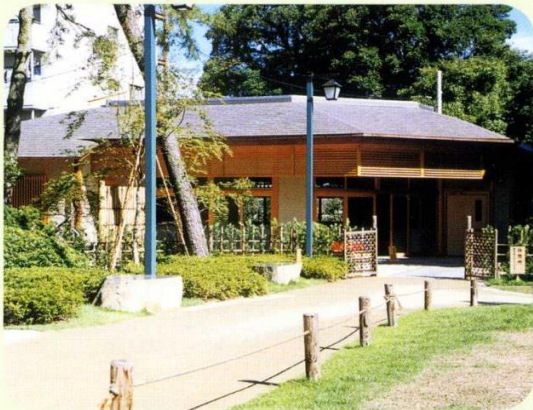
【翠松閣】



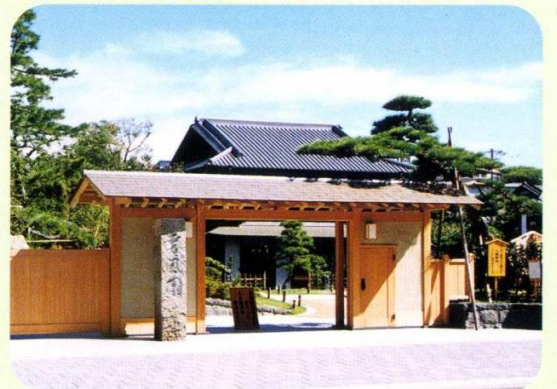
【芝生広場】



【休憩所】



【西門】



- 交通アクセス
- 入園料
- 開園時間
- 施設使用料

J R 坂出駅下車西へ徒歩5分
無料

1月～6月、9月～12月 8:30～18:00
7月～8月 8:30～20:00

休憩所 無料
時雨亭・翠松閣 2,500円/日

(詳細は都市整備課44-5017までお問い合わせください。)